

作成日	2024年6月30日
学科名	食物栄養学科

教育・学習

1. 現状分析

自己評価 (S) A・B・C

評価項目①

達成すべき学習成果を明確にし、教育・学習の基本的なあり方を示していること。

<評価の視点>

- ・学位授与方針において、学生が修得すべき知識、技能、態度等の学習成果を明らかにしているか。
- また、教育課程の編成・実施方針において、学習成果を達成するために必要な教育課程及び教育・学習の方法を明確にしているか。
- ・上記の学習成果は授与する学位にふさわしいか。

参照資料

- ・学位授与の方針
- ・教育課程編成・実施の方針
- ・その他参照した資料 ()

【現状分析】

「食物栄養学科 学位授与の方針」において、高度の知識・理解・技能を有しているものに学位を授与している。幅広い教養や汎用的技能を学んで、日本語で正確に表現する力を身に着けるとともに、データを分析して活用する能力を身に着けた上で、健康と食に関する様々な授業で専門的な知識を段階的に習得していく教育プログラムとなっている。また、実験実習を通して、調査やレポート作成、プレゼンテーション能力を発表の機会を与えることで、成果を明確化している。さらに、校外実習を経ることで、社会性や自律性、リーダーシップを養える。また、「食物栄養学科 教育課程編成・実施の方針」において、学年・セメスターの進行ごとに学びを高め深めていくよう体系的に科目を配置している。

自己評価 : S (A) B・C

評価項目②

学習成果の達成につながるよう学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成していること。

<評価の視点>

- ・学習成果の達成につながるよう、教育課程の編成・実施方針に沿って授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

※ 具体的な例
- ・授与する学位と整合し専門分野の学問体系等にも適った授業科目の開講。
- ・各授業科目の位置づけ（主要授業科目の類別等）と到達目標の明確化。
- ・学習の順次性に配慮した授業科目の年次・学期配当及び学びの過程の可視化。

参照資料

- ・R5 設定の主要授業科目表
- ・R5 設定のカリキュラムマップ、ツリー
- ・単位修得要領
- ・シラバス
- ・学修行動調査の学修時間に関する設問（大学）
- ・その他参照した資料 ()

【現状分析】

教育課程編成・実施の方針に基づき、基礎領域、専門基礎領域（社会・環境と健康、人体の構造と機能及び疾病のなり立ち、食べ物と健康）、専門領域（臨床栄養学、給食経営管理論、栄養教育論、講習栄養学、基礎栄養学、応用栄養学、総合演習・臨地実習）、総合発展領域（食物栄養研究法、卒業論文）を順に体系的に学ぶ。1年次には食と健康に関する科目を理解するために必要な基礎的知識を食物栄養基礎演習や基礎実験などを通して身に着けるとともに、一部専門基礎分野の学びを始める。2年次には発展的講義で専門基礎分野に加えて専門分野も開始する。3年次では、発展的講義で管理栄養士に関する科目の学びをさらに深める。さらに、「臨床栄養」、「健康教育」、「研究開発」の系列分けを行い、課題を発見、解決する力を身に着ける。4年次には、4年間の学修を総合して卒業研究を行い、生涯にわたって学び続ける能力を確立する。学位授与の方針と、配置している授業科目との関連については、カリキュラムマップにおいて示しており、カリキュラム全体の体系性については、カリキュラム・ツリーを作成し、入学時の説明と各年度にクラスごとに説明している。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目③

課程修了時に求められる学習成果の達成のために適切な授業形態、方法をとっていること。また、学生が学習を意欲的かつ効果的に進めるための指導や支援を十分に行っていること。

<評価の視点>

- ・授業形態、授業方法が学部・研究科の教育研究上の目的や課程修了時に求める学習成果及び教育課程の編成・実施方針に応じたものであり、期待された効果が得られているか。
- ・I C Tを利用した遠隔授業を提供する場合、自らの方針に沿って、適した授業科目に用いられているか。また、効果的な授業となるような工夫を講じ、期待された効果が得られているか。
- ・授業の目的が効果的に達成できるよう、学生の多様性を踏まえた対応や学生に対する適切な指導等を行い、それによって学生が意欲的かつ効果的に学習できているか。

※ 具体的な例

- ・学習状況に応じたクラス分けなど、学生の多様性への対応。
- ・単位の実質化（単位制度の趣旨に沿った学習内容、学習時間の確保）を図る措置。
- ・シラバスの作成と活用（学生が授業の内容や目的を理解し、効果的に学習を進めるために十分な内容であるか。）。
- ・授業の履修に関する指導、学習の進捗等の状況や学生の学習の理解度・達成度の確認、授業外学習に資するフィードバック等などの措置。

参照資料

- ・シラバス
- ・ALCS 学修行動比較調査（1・3回生）
- ・授業アンケート
- ・学修行動調査（大学）
- ・卒業時アンケート（大学）
- ・ジェネリックスキル測定テスト
- ・その他参照した資料（）

【現状分析】

1年次の基礎の生物学、基礎の化学においては、入学時のテストと高校での学習科目調査をもとに、クラス編成を行って、それぞれの学習レベルに応じた授業を行っている。また、3年時にはコース分けを行い、それぞれの学生の希望に応じた科目を提供している。基本を対面授業とし、小テストやレポート課題を出すことで、自宅学習の時間を確保するよう求めている。そ

れらに対するフィードバックを紙ベースであればコメントをつけて返却、ICTを活用した提出であればICTを介して行っている。各学年での履修状況に関する指導はクラスアドバイザーが行い、学修状況が芳しくない場合には個別面談を行っている。それぞれの授業の履修指導、学修状況については担当教員が確認している。ALCS学修行動比較調査においても、課題を提出し、学修経験をもとに、分析力や課題解析力が得られたことが分かる。卒業時アンケートで専門科目で得られた知識と技能がとりわけ身に着いたと実感していることが分かる。

自己評価：S (A) B・C

評価項目④

成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っていること。

<評価の視点>

- ・成績評価及び単位認定を客観的かつ厳格で、公正、公平に実施しているか。
- ・成績評価及び単位認定にかかる基準・手続（学生からの不服申立への対応含む）を学生に明示しているか。
- ・既修得単位や実践的な能力を修得している者に対する単位の認定等を適切に行っているか。
- ・学位授与における実施手続及び体制が明確であるか。
- ・学位授与方針に則して、適切に学位を授与しているか。

参照資料

- ・シラバス
- ・授業アンケート
- ・各科目の成績分布
- ・学修行動調査の成績評価に関する設問（大学）
- ・ALCS学修行動比較調査（1・3回生）
- ・各種会議の議事録等
- ・その他参照した資料（ ）

【現状分析】

成績評価は授業評価により異なるが、試験、レポート、授業への取り組み、発表等によりシラバスに記載の割合で評価し、成績評価と単位認定を行っている。複数教員が担当する科目の場合には、カリキュラムのすり合わせや試験の共通化、平均点の調整等を行うことで、成績評価の偏りを無くしている。学修行動調査やALCS学修行動比較調査等から約半数が適切に評価されているとしているが、1/4強が科目によりばらつきがあるとしている。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目⑤

学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価していること。

<評価の視点>

- ・学習成果を把握・評価する目的や指標、方法等について考えを明確にしているか。
- ・学習成果を把握・評価する指標や方法は、学位授与方針に定めた学習成果に照らして適切なものか。

参照資料

- ・各種アンケート（ALCS学修行動比較調査、授業アンケート、卒業時アンケート等）
- ・ジェネリックスキル測定テストの結果
- ・その他参照した資料（ ）

【現状分析】

学生の学習成果は、各種学生アンケートと授業アンケートにより把握、評価している。学位授与方針にあるように、食物栄養学の分野において、高度の知識と理解を有して、主体的に思考と判断ができるように、学習成果を評価している。実際に、授業課題や学生間のディスカッションとともに、主体的に学び続ける能力や課題解決能力が卒業時アンケートでも学生がついたと実感している。一方、「母語以外の特定の外国語が運用できる」の項目は修得度が低い。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目⑥

教育課程及びその内容、教育方法について定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教育課程及びその内容、教育方法に関する自己点検・評価の基準、体制、方法、プロセス、周期等を明確にしているか。
- ・課程修了時に求められる学習成果の測定・評価結果や授業内外における学生の学習状況、資格試験の取得状況、進路状況等の情報を活用するなど、適切な情報に基づいているか。
- ・外部の視点や学生の意見を取り入れるなど、自己点検・評価の客観性を高めるための工夫を行っているか。
- ・自己点検・評価の結果を活用し、教育課程及びその内容、教育方法の改善・向上に取り組んでいるか。

参照資料

- ・過年度自己点検評価シート
- ・卒業時アンケート（大学）
- ・資格取得状況
- ・進路就職状況
- ・最低修業年限内卒業率
- ・過年度のFDの取組企画と振り返りシート
- ・各種会議の議事録等
- ・その他参照した資料（ ）

【現状分析】

管理栄養士養成課程であることから、管理栄養士国家試験の受験資格を得ること、さらに国家試験での合格が教育課程の評価の大きな基準となる。経年的には、国家試験の合格率が全国的な低下と同程度に低下している。栄養士免許の取得についてはほぼ全員が取得できており、さらに10－20%程度の学生が栄養教諭等教職の資格も得ている。これらの事柄を経年的に観察しながら、毎年教育方法について学科会議あるいは場合によってはワーキンググループを作って検討している。教員活動報告の教育に関する事項を学科内で共有し、各教員の教育内容を検討し、内容や教育方法の改善に取り組んでいる。また、過年度のFDではアカデミックハラスマント研修を行い、現在の大学を取り巻く現状や実際に事例について学ぶことで、授業や学生への対応に活かして改善・向上に取り組んでいる。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

【長所】

従来より、幅広い学びを実現するために、3年時に3系列に分かれて、それぞれ異なる授業科目を提供している。その一方で、異なる系列であっても4年時に科目を履修できるようにするなど、学生に幅広く科目を提供している。高度な専門的知識の習得を達成するために、段階的に学びを深める教育課程としている。ディプロマポリシーの各項目がカリキュラムに配置されており、体系的な科目編成となっている。

【問題点】

評価項目②に関して、「臨床栄養」、「健康教育」、「研究開発」の各系列と臨地実習の期間及び内容で学生の要望と一部合致しないケースがみられる。評価項目④に関して、成績評価の偏りは各教員間、各教科間で密に連絡を取ることでさらに少なくする。評価項目⑤に関して、汎用的技能としての外国語の対応が不十分である。評価項目⑥に関して、管理栄養士国家試験の合格率が以前の90%台から80%台に低下してきている。また、コロナ禍前は学生も参画したFD研修を行っていたが、コロナ禍以降は講師と教員のみのFD研修となっている。ディプロマポリシーの各項目がカリキュラムに配置されているものの、偏りがみられる。

3. 改善・発展方策

【改善・発展方策】

「臨床栄養」、「健康教育」、「研究開発」の各系列と臨地実習の期間及び内容を学生の要望を踏まえながら合致させていく。科学英語授業では、到達度調査によるクラス分け、それに伴うクラス数増などの対応を実施している。管理栄養士国家試験対策授業として、既存の演習に加えて試験対策を専門とする外部講師を招聘し、苦手科目及び最新問題の出題傾向と対策について講義してもらう。既存の演習授業を学生も参画したFD研修により教育課程と教育方法の点検については、本年度より学生の参画を再開する予定である。令和9年度に予定されている学科の改組の際に、教育課程の再検討を行う。

学生の受け入れ

1. 現状分析

自己評価 : (S) A・B・C

評価項目①

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

<評価の視点>

- ・学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程）に設定しているか。
- ・学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。

参照資料

- ・学生の受け入れ方針
- ・各種会議の議事録等
- ・その他参照した資料（）

【現状分析】

学生の受け入れ方針に基づき、化学または生物の高校での習得を重視し、入学者選抜においてもどちらかの科目を必須としている。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへつなげているか。

参照資料

- ・実志願者・延べ志願者推移
- ・入試区分別志願者推移
- ・入試区分別累積GPA
- ・各種会議の議事録等
- ・その他参照した資料（）

【現状分析】

志願者数はおおまかには減少している。大学全体の方針に従い、年内入試の割合が近年大幅に増加している。しかし、入試区分によるGPAに関しては、大きな差は見られない。一方で、ばらつきは公募制推薦と指定校Bで大きい。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

【長所】

志願者の負担を軽減するため、必須としている化学または生物の解答形式をマークシート式とするなどしている。総合型選抜においては、食物栄養に関する基礎的な記述式のテストを課すことで、普通科卒業生のみならず食品系の卒業生も受験できるようにしている。

【問題点】

志願者数が減少傾向にあり、今後の少子化に伴いさらなる現象が予想される。年内入試の割合の増加に伴い、早期合格後のモチベーションの維持や入学前学習をいかに行うかに課題がある。

3. 改善・発展方策

【改善・発展方策】

管理栄養士の資格が、今後の高齢化社会において必要とされるものであること、食品分野は人間社会において必須の分野であり、食品企業は景気に左右されにくい分野で就職状況も左右されにくいことをアピールすることにより、志願者を確保していく。年内入試合格者には入学前課題を課しており、内容を今後の入学者のGPA推移とともに検討する。

教員・教員組織

1. 現状分析

自己評価 (S) A・B・C

評価項目①

教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を安定的にかつ十全に展開できる教員組織を編制し、学習成果の達成につながる教育の実現や大学として目指す研究上の成果につなげていること。

<評価の視点>

- 大学として求める教員像や教員組織の編制方針に基づき、教員組織を編制しているか。

※具体的な例

- 科目適合性を含め、学習成果の達成につながる教育や研究等の実施に適った教員構成。
- 各教員の担当授業科目、担当授業時間の適切な把握・管理。
- 授業において指導補助者に補助又は授業の一部を担当させる場合、あらかじめ責任関係や役割を規程等に定め、明確な指導計画のもとで適任者にそれを行わせているか。

参照資料

- 教員組織の編成方針
- 科目群別非常勤教員比率
- 各種会議の議事録等
- その他参照した資料 ()

【現状分析】

新任の場合には、選考委員会と教授会において研究業績と科目適合性を審査している。また、カリキュラム変更時や担当教員が変更となる際には、学科会議と場合によっては教授会でも研究業績と科目適合性を審査している。各教員のコマ数および担当授業については、学科会議を通して学科構成員全員でもチェックしている。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目②

教員の募集、採用、昇任等を適切に行っていること。

<評価の視点>

- 教員の募集、採用、昇任等に関わる明確な基準及び手続に沿い、公正性に配慮しながら人事を行っているか。
- 年齢構成に著しい偏りが生じないように人事を行っているか。また、性別など教員の多様性に配慮しているか。

参照資料

- 教員の性別・年齢・職位構成
- 各種会議の議事録等
- その他参照した資料 ()

【現状分析】

教員の募集は、学科内で必要な教員要件と担当科目を決定した上で、公募している。学科の昇任基準に基づき、業績や適性を考慮に入れて人事を行っている。教員の性別は男女比が半々近くと適正であり、職位は教授比率が60%近くとなっている。近年、新規の教員募集を行っていないため、平均年齢が上昇している。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目③

教育研究活動等の改善・向上、活性化につながる取り組みを組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上につなげていること。

<評価の視点>

- ・教員の教育能力の向上、教育課程や授業方法の開発及び改善につなげる組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。
- ・教員の研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るために、組織的な取り組みを行い、成果を得ているか。
- ・大学としての考えに応じて教員の業績を評価する仕組みを導入し、教育活動、研究活動等の活性化を図ることに寄与しているか。
- ・教員以外が指導補助者となって教育に関わる場合、必要な研修を行い、授業の運営等が適切になされるよう図っているか。

参照資料

・過年度のFDの取組企画と結果

・授業アンケート（大学）

・卒業生アンケート（大学）

・ALCS学修行動比較調査（1・3回生）

・各種会議の議事録等

・その他参照した資料（ ）

【現状分析】

FDおよび複数教員担当科目における授業方法の検討を通じて、授業方法の改善につなげている。学生と卒業生が参加するコロナ禍前のFDの情報から、学生が社会で活躍するまでの必要な取り組みを検討した。公開講座を通して、一般市民への講演を通して社会貢献を行っている。

自己評価 (S) A・B・C

評価項目④

教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

<評価の視点>

- ・教員組織に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、教員組織に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへつなげているか。

参照資料

・各種会議の議事録等

・過年度自己点検評価シート

・その他参照した資料（ ）

【現状分析】

教員組織の現状については、学科会議で適時情報を共有している。

2. 分析を踏まえた長所と問題点

【長所】

男女比については、ほぼ半々となっており、それを長期に渡って維持できている。

【問題点】

教員数の減少にともない、教員の授業負担などが増加している。また、新規の教員採用を控えていることから、平均年齢が上昇しているとともに教授比率が上昇している。

3. 改善・発展方策

【改善・発展方策】

助教や講師といった職位の新規教員を採用することで、平均年齢と教授比率を低下させる。